

# 「第三次産業・ゼロ災運動100」

## 達成事業場の取組内容紹介

松阪労働基準監督署では、第三次産業における自主的な安全衛生活動を推進するため、管内の第三次産業を中心に、令和5年9月20日～12月28日の100日間、無災害に挑戦する事業場を募集したところ、**6事業場**が達成されました。ご協力ありがとうございました。

9/20

取組み期間

12/28

令和5年9月

10月

11月

12月

Check!!

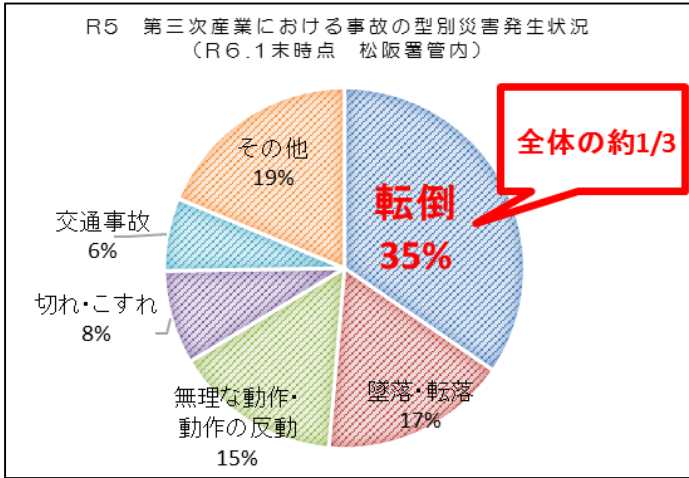
ゼロ災害達成事業場の取組み事例



事業場名	安全衛生スローガン	取組み内容
株式会社 アンフィニィ・ サービス	労働災害の「ゼロ」の達成	<ul style="list-style-type: none"><li>派遣先企業が50社近くあり、作業場・現場に入れない派遣先も多い為、給料明細に同封で啓蒙資料の郵送やスタッフ本人との電話での注意喚起を行った。</li></ul>
ケアステーション たきび 松阪施設	腰痛を起こさない	<ul style="list-style-type: none"><li>期間中の社内研修の実施</li><li>腰痛予防運動の実施やチラシの掲示</li></ul>
障害者支援施設 嬉野カトリックの 家	もう一度 初心に戻る	<ul style="list-style-type: none"><li>毎日の朝礼 月1回の職員会議にて周知し、意識付けを行った。</li></ul>
名古屋プロパン 瓦斯株式会社 伊勢支店	指差呼称と再確認、二刀流の 確認で目指せ無事故のMVP	<ul style="list-style-type: none"><li>毎朝、朝礼時に「安全運転、安全作業で」と唱和し、全従業員の意識向上を図る。</li><li>ゼロ災運動100のカレンダーを見やすい位置に掲示し、モチベーションを高めるとともに安全に対する意識の「見える化」を目指す。</li></ul>
富士電設備 株式会社	作業計画の事前策定、作業前 の安全再確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"><li>本部、現場双方で毎日「安全確認事項」各担当者全員に発言を求め安全意識の高揚に努めた。</li></ul>
社会福祉法人 松阪仏教愛護園	常日頃、安全意識を再確認	<ul style="list-style-type: none"><li>職員一同、災害を防止し安全業務できるよう取り組んだ。</li></ul>

# 第三次産業における災害の動向

管内における第三次産業での労働災害は107件発生しており、そのうち37件が「**転倒**」災害です（令和5年発生件数）。また、転倒災害における**休業日数は平均約41日**、**休業1か月以上の転倒災害は23件**となっており、骨折などの長期の休業を要する重篤災害になり得ます。「転倒」災害の対策を中心に、安全衛生活動を推進してください。



「転倒」災害に腰痛等を含む「動作の反動・無理な動作」を加えた「**行動災害**」の発生件数は、**53件**にのぼります。

厚生労働省HP等を参考に、腰痛予防にも取り組みましょう。

厚生労働省HP

「腰痛予防対策」⇒



## ☆☆ 敷地内に転倒原因がないかチェックし、対策を講じましょう！！ ☆☆

<input type="checkbox"/> (なし) 何も無いところでもつまずいて転倒、足がもつれて転倒 ☞転倒や怪我をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入	<input type="checkbox"/> 作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒 ※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い ☞電気コード等の引き回しのルールを設定し、遵守を徹底
<input type="checkbox"/> 作業場・通路に放置された物につまずいて転倒 ☞バックヤード等も含めた整理、整頓（物を置く場所の指定）の徹底	<input type="checkbox"/> 凍結した通路等で滑って転倒 ☞従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する
<input type="checkbox"/> 通路等の凹凸につまずいて転倒 ☞敷地内（特に従業員用通路）の凹凸、陥没穴等（ごくわずかなものでも危険）を確認し、解消	<input type="checkbox"/> 作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等で滑って転倒 ☞水等がこぼれていることのない状態を維持する。
<input type="checkbox"/> 作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒 ☞適切な通路の設定 ☞駐車場の車止めの「見える化」	<input type="checkbox"/> 水場（食品加工場等）で滑って転倒 ☞滑りにくい履き物の使用 ☞隣接エリアまで濡れない処置 ☞防滑床材・防滑グレーチング等の導入、再施工
<input type="checkbox"/> 作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒 ☞設備、什器等の角の「見える化」	<input type="checkbox"/> 雨で濡れた通路等で滑って転倒 ☞雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う

## ☞ 「見える化」を実践してみよう！

職場に潜む危険は、視覚的に捉えられないものが多くあります。それらを可視化（見える化）することで、より効果的な安全活動を行うことができます。

「見える化」は、危険認識や作業上の注意喚起を分かりやすく知らせることができ、また、一般労働者も参加しやすいなど、安全確保のための有効なツールです。左記の見える化事例を参考に、職場の見える化に挑戦しましょう。



階段に通行区分を明示し、事故が起こりやすい最後の3段にはカウントダウンを表示。



危険ステッカーによる見える化。危険個所に張付、危険個所と危険内容を警告する方法で利用。

参考：「職場の危険の見える化実践マニュアル」⇒

